

麦類赤かび病に対するワークアップ粉剤DLの防除効果

かび毒汚染が問題となる被害が大きい病気！

(待望の新薬剤)

(既存の特効薬)

ワークアップ粉剤DL

トップジンM剤

2剤の体系防除で防除対策の強化



薬剤の効果を発揮させるには
適期防除が重要です！

(発生後の防除は困難です)



こんな麦は出荷できません！

赤かび病の防除方法

新薬剤ワークアップ粉剤DLの防除効果

赤かび病に卓効を示すトップジンM粉剤と同等の効果が得られます。

使用薬剤：① ワークアップ粉剤DL

② トップジンM粉剤、トップジンM水和剤 または トップジンMゾル

防除回数：二条大麦・・・1回

六条大麦・小麦・・・2回

(多発生が予想される場合には追加防除必要)

薬剤使用方法：表1参照

図1 薬剤1回散布の防除効果

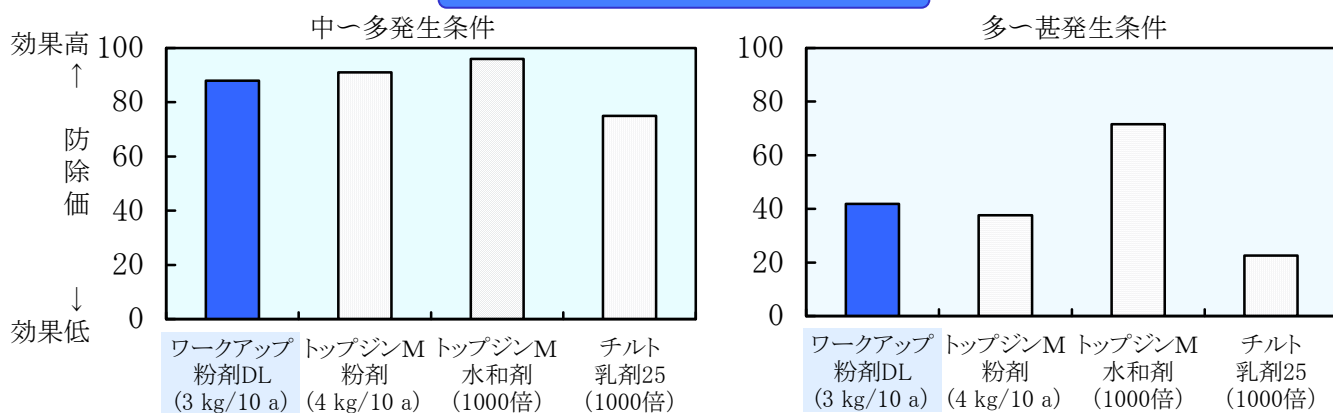


表1 麦類赤かび病の防除例(粉剤体系)

| 麦の種類 | | 1回目の防除 | 2回目の防除 | 3回目の防除 |
|------------|------|-------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 二条大麦 | 防除適期 | 【必須】 穂揃い期の10日後頃 | (多発生予想時) 1回目防除の7～10日後 | / |
| | 薬剤 | ワークアップ粉剤DL (3kg/10a) | トップジンM粉剤 (4kg/10a) | |
| 六条大麦 小麦 | 防除適期 | 【必須】 開花を始めた時期～開花期 | 【必須】 1回目防除の7～10日後 | (多発生予想時) 2回目防除の7～10日後 |
| | 薬剤 | ワークアップ粉剤DL (3kg/10a) | トップジンM粉剤 (4kg/10a) | ワークアップ粉剤DL (3kg/10a) |

注)・穂揃い期:全茎の80～90%が出穂した日。

・開花期:1穂につき数花開花をしているものが、全穂数の40～50%に達した日。

・1回目防除剤と2回目防除剤を逆にしてもよい。

・トップジンM粉剤を、同粉剤DL、同水和剤あるいは同ゾルに替えてもよい。

1. 農水省より本病に対する薬剤の散布適期(麦類のデオキシニバレノール・ニバレノール汚染低減のための指針, 2008年12月)が示されている(表1参照)。
2. 粉剤および水和剤の散布が可能な場合は、ワークアップ粉剤DLとトップジンM水和剤または同ゾルとの体系防除が最も有効である。
3. ワークアップ粉剤DLは2回散布が可能であるが、薬剤耐性菌の発生を防止するために、1回散布を基本とする。

(問い合わせ先)
鳥取県農林総合研究所 農業試験場 環境研究室
TEL : 0857-53-0721

※ 本書から転載複製する場合には必ず
農業試験場の許可を受けて下さい